



じんましの原因と治療

じんましん（蕁麻疹）は、皮膚の一部が赤く盛り上がり、かゆみを伴うことが多い皮膚疾患です。およそ2割の方が、じんましんを生じた経験があるとする報告がありますので、じんましんが出たことがある方も少なくないと思います。

じんましんの原因は、感染症、アレルギー（薬剤、食物など）、虫刺され、物理的刺激、温度変化、日光、運動など多岐にわたり、それらが合わさることで生じることがあります。急性じんましんであれば、原因を推測できることがありますが、慢性の場合は検査をおこなっても原因がわからないことがほとんどです。多くの場合は、数十分から数時間程で自然に消えていきますが、出たり消えたりを数日から数週間繰り返すことがあります。

じんましんが出た場合の治療は、誘因によりませんが、抗ヒスタミン薬の内服で対応することが多いです。一度、じんましんを生じるとしばらくは出やすい状態が続きますので、じんましんが治まってから数日は抗ヒスタミン薬を飲んでおくといいです。抗ヒスタミン薬を内服しても症状が続く場合は、ステロイドを短期間使用することがあります。じんましんの原因がわかっている場合は、それらを避けることが重要です。感染症が原因の場合は、時間の経過とともに改善します。

このように、じんましんの原因はさまざまで、症状の出方や重症度などによって対応が異なります。じんましんを生じた場合は、かかりつけ医にご相談してみてください。